

一般質問 まちづくりを問う

12月定例議会では、19人の議員が登壇し、質問を行いました。
質問と答弁の内容を要約して、お知らせします。

早急に「総合土地調整局」の設置を

市長／国・県の動向を確認し、検討



議員 野ノ 範男 議員

税は2511件である。

議員 不動産登記で、最終登記が50年以上前の土地の対象者数はいくらか。

市長 合併前の登記状況の確認は、困難である。

議員 水田農業の営農計画書や農地台帳の実態は。

市長 所有者の不明な水田は存在しているが、その数は把握していない。

農委会長 相続未登記の所有者不明農地はあるが、詳

議員 国の調査で、未登記で所有者不明の土地は国土の約20%で、九州の面積を超えた。市の現状は。
市長 個人の固定資産税の納税義務者は、全体で3万791人、うち、死亡者課



静かに土地の所有者不明化が進行

細は把握していない。

議員 市の土地管理体制の総合調整機能を担う「総合土地調整局」を設置し、啓発活動を展開すべきだ。

市長 重要な課題であり、国・県の動向を確認しながら、検討する。

市道栗原辻前線は

議員 市道栗原辻前線整備事業は、工事中の市道辻前遠掘線や県営ほ場整備事業「稲屋敷袋地区」の進捗を踏まえ実施する予定だが、両事業の進捗状況は。

市長 市道辻前遠掘線は、第2期事業で地権者との用地交渉中である。ほ場整備事業はほぼ順調で、平成30年度に採択の見とおしだ。

議員 国道4号への接続ルートの検討結果は。

市長 5ルートを検討中だ。交通特性や利便性、経費などを精査し、慎重な検討を要すると考えている。

入の沢遺跡を活用した町づくり

市長／栗原の歴史や魅力の発信地としたい



議員 勝義 かつよし
相馬 そうま

議員 バイパス工事過程で入の沢遺跡が発見、国の史跡の文化財と指定されており、市の文化財の宝庫として全国にPRすべきと考え、次の質問をする。



富野地区の入の沢遺跡

一、入の沢遺跡を市が取得して整備保存し、公開すべきと考える。

二、伊治城跡整備基本計画の中に、入の沢遺跡との連携について組み込んでほしい。

三、城生野神楽なども含め富野地区全体を「歴史をたどる文化の地区」として整備してはどうか。

四、入の沢遺跡の要因により、国道4号バイパスの進捗状況への影響は。

市長 この地域は国の史跡に指定された歴史上、重要な場所である。今後、両史跡の保存、活用、整備を進めるとともに、栗原の歴史遺産を次世代に継承できる様、取り組んでいきたい。

議員 野球部グラウンドの移設は平成27年から協議されていることで、県との共通認識の中での進捗状況はまた新設グラウンド周辺の道路整備について。

築高野球部グラウンド

市長 新設グラウンドについては、県とこれまで協議が数回行われ、調整すべき事項を確認している。また周辺道路は市の中核ゾーンとなる重要な場所なので、グラウンドの計画が確定次第、県との協議を進めていきたい。

除融雪事業者を育成せよ

市長／地域貢献など総合評価方式を試験的に導入



議員 貞光 きたみつ
阿部 あべ



丁寧な除雪を心がけて

議員 オペレーター育成支援の効果は。

市長 今年度まで5名が車両系建設機械運転講習を修了し、除雪機械の運転が可能となっている。

議員 「地域の守り手」である事業者が除融雪作業から撤退する動きが問題とされている。本市の状況はどうか。更なる育成策を求めたい。

市長 5年間に12社が撤退し、新たに7社が加入した。年度内に価格面だけでなく、施行能力や実績、地域貢献として除融雪への協力などを評価ポイントとする総合

評価落札方式を試行する。

捕獲鳥獣処理の負担軽減を図れ

議員 捕獲鳥獣の処分は埋設などで行われているが限界がある。捕獲頭数の増加を見越し処理方針・処理場建設・シビ工活用を含め計画を示すべきと考える。

市長 捕獲実績や処理方法を踏まえながら、県や実施隊などの関係機関と協議し、広域連携による処理など他の自治体の取組み事例を参考に研究していく。

農地管理事業はどう変わる

議員 農業委員会と農地中間管理機構との連携にかかわる活動方針が示されている。マッチングを含めどう変わるか。

農委会長 国の指導のもと、統一的な活動方針や活動を関係機関で共有し、地域の推進体制の強化と連携を図る事を定めたもので、これまでの活動と同様の内容である。中間管理機構から農業委員会のほうでマッチングをしたものを上げる様に指導されている。

市民の声

市長／今後も検討する



濁沼 一孝 議員



要望されている市道上田線

議員 平成20年岩手宮城内陸地震により市道上田線は、甚大な被害を受けた。議会でも請願が採択されている。早期の整備を。

市長 今後も必要性、緊急性、費用対効果などを十分調査の上、検討する。

議員 国道398号と市道御蔵線との交差点の早期の整備を。

市長 交差点改良事業を平

成25年度より着手している。交渉が整いしだい早期完成を目指す。

議員 築館工業団地の整備にかかる進捗状況を示せ。

市長 企業進出ニーズに即座に対応できるように早期の造成をお願いしているが知事への要請も重ねて行う。

議員 築館インター、若柳金成インター両工業団地は今、操業開始に向けて整備が進んでいる。今後は工場

で働く従業員の確保が課題になる。金成総合支所西側に住宅団地の建設を提案するが市長の見解を伺う。

市長 新たな住宅団地の造成計画はないが必要に応じて検討する。

議員 栗駒地区での各種イベントは栗駒みちのく伝創館が活用されている。イベントが開催される時は高齢化のため、会場の設営が大変である。移動式の観客席の設置を要望する声があるが市長の見解を伺う。

教育長 建物の床や壁の構造上の問題、観客席を収納するスペースの確保のため、利用スペースが狭くなるなどの課題が多く問題があると考え。今後研究を行う。

クロベを国の天然記念物に

市長／平成30年度に現地調査する



佐藤 千昭 議員



千年クロベ

議員 栗駒山系に日本最大級のクロベが自生している。樹齢千年以上と推定され、国の天然記念物に指定されるほどの巨樹である。これまで2度質問しているが、その後の経緯を聞く。

教育長 平成19年度からク

ロベ所有者の国と協議を重ねてきたが2度の震災により休止状態となっていた。平成26年度より再協議を行い、クロベまでの道を市が借り受け管理用道路として借地契約を締結している。

議員 天然記念物指定に向けてのスケジュールは。

教育長 平成30年度に植物を専門とする大学教授による現地調査と、その報告書をもとに、市の文化財保護審議会に諮問して市の天然

記念物に指定したい。指定後、保護対策および注意喚起の説明版などの設置に向け関係機関と調整を進める。県・国の天然記念物にも指定されるよう働きかける。

議員 市内の松くい虫の被害の推移を聞く。

市長 平成7年度が被害量のピークでその後減少傾向にあったが、近年異常気象の影響もあり多くなっている。

議員 予防や駆除は。

市長 予防は、薬剤の地上散布と樹幹注入で、駆除は、伐採薫蒸で被害の拡大防止に努めている。今後とも定期調査や巡視パトロールに基づき対策に努めていく。

議員 選挙の投票所のバリアフリー化が遅れている。早急に対応されたい。

市長 投票所のバリアフリー化は避けて通れない。選挙管理委員会と協議の上、即行で対応する。

患者と家族を支える支援体制強化を

市長／推進員配置、サポーター養成など進める



市長 高橋 謙二

職の無い就労環境整備への支援体制が重要である。

市長 ①各年度の介護保険

議員 ①第7期（平成30、32年度）市介護保険事業計画の第1号保険料（基準の第5段階）と軽減措置は、どうか。

②認知症の人と家族を支える仕組み作り、サポーター養成拡充、介護・子育て離

大は、未定である。
②「安心ガイド」での啓発、地域支援推進員の配置、サポーター養成、「認知症カフェ」などのやさしい地域づくりを進めていく。



認知症サポーター養成講座

議員 ①人事院は、官民較差に基づき、月例給を631円（0・15%）一時金を0・1月引き上げる、実施時期は、平成29年4月1日とする勧告を行った。市は、国・県に準拠して改定すべきである。

②市行政・職員の多忙化、長時間労働、健康被害が心配されている。時間外労働の管理、業務改善は適切に行われているか。

市長 ①国家公務員準拠を基本に完全実施する。臨時・非常勤一般職員は、人勧の初任給引き上げ額を参考に平成30年1月1日から増額改定の予定である。

②所属長が命令し、健康維持など過度な長時間労働にならないよう適正に管理している。所管課内で改善できるものは、所属長から指示・実施し、複数の課にまたがるものは、企画課で集約・調整し進めている。

「いのちを守る」取り組みを

市長／検診の受診勧奨など重要性の啓発に努めている



市長 三浦 善浩

議員 女性特有のがん、乳がん（自分で発見できる唯一のがん）といわれている。情報の提供を推進することが重要である。①入浴時の自己チェックに利用できるシート（お風呂場に張れる）を配布する事業を導入しては、②啓発する情報を載せた「ドアノブプレート」を配布する事業を導入しては、（表側は「月に一度は自己検診をしましょう」と呼び掛け、その方法をイラストで紹介。裏側は、なりやすい要因などを記す。チラシはしまい込むと目にしなくなるが、ドアノブプレートはよく目にするため注意を喚起しやすい。）

市長 ①②どのような方法が検診の啓発普及に有効なのかを検討しながら、一層の啓発活動に努めたい。



ドアノブプレートの事例

行政組織改編（産業経済部）の先を問う

議員 ①農政の司令塔としての役割はどう変わるのか。②放射能対策は、すべて新たな部署で対応するのか。③商工振興は。④企業立地の今後の方向性と展開は。

市長 ①農業政策課と農林畜産課で担当。②農林業対策とともに、現状業務を引き継ぐ。③観光振興、道の駅整備などを推進する事務、商工業の振興や企業立地及び誘致施策に関する事務を合わせて行う。④社会情勢の変化に対応し、展開する。

【その他の質問項目】

一般質問の「その後」は①「介護マーク」は。②子ども議会の開催は。③「健康マイレージ」事業は。

学府くりはら、郷土出身の及川平治先生に学べ

市長／及川平治先生の資料の移動と講演会の開催を検討



たかはし かつお 議員
高橋 勝男



及川平治先生の胸像と記念碑（若柳ドリームバル）

議員 栗原市若柳出身の教育者「及川平治」先生の教育理念について伺うと共に、今の教育にどう活かされているか。

教育長 及川平治先生の教育理念は「分団式動的教育法」という指導法で、学ぶ子どもの側に立ち、知識注入の画一的な教え込む教育から、子どもが自ら問題を発見し、解決の仕方を学ぶという「学びを学ばせる教育」である。子どもの実態や能力には個人差がある事

からグループ学習や個別指導が行われており、今の教育現場に活かされている。

議員 及川平治先生を知ってもらうために、若小で保管している資料を教育研究センターに移動してはどうか。また、市で、及川平治教育講演会を開催しては。

教育長 資料の保管場所については、若小と相談し、教育研究センターのスペースなどを検討し対応する。また、教育講演会については、PTAとも協議する。

議員 岩ヶ崎高校と栗駒中学校を想定した中高一貫校の進捗状況は。

教育長 県の教育長に、中高一貫教育校の創設の考えを伝え、実現の可能性について協議を行ってきた。

議員 県によって、中高一貫教育のやり方に違いがある。調査研究を行い、栗原市方式を県に発信する事も必要ではないか。

教育長 中高一貫教育校は必要。先進事例の課題や学校現場の考え方、県との役割分担など、課題を分析し、どのような連携が望ましいか、さらに研究していく。

循環器・呼吸器病センターの跡地利用 住民要望はどう反映されているか

市長／県と仁泉会の協議を注視していく



たまけし ましひろ 議員
沼倉 猛

議員 県立循環器・呼吸器病センターの跡地利用は「仁泉会」に決定の方向にあると報道されているが地元要望は反映されているか。

市長 施設内に地域交流スペースを作る。職員は地元



山間地でがんばる

雇用を優先する。施設で消費する物品は地元で購買し、地域経済への貢献に努める。将来は子育て支援施設を検討する。クリニックは内科で誰でも受診できる。などが現在知り得る情報である。

農業施策をどう進めるのか

議員 農村の高齢化、後継者不足は深刻だ。市の農業人口はこの10年間で1万5

413人減少し、農業生産額も133億円余り落ち込んでいる。企業農業、大規模農業のみの推進政策で家族農業切り捨て政策によるものではないか。

市長 農業の後継者不足は重労働などの理由で若者から敬遠されたのではないかと。農機具の高騰などで小規模農家が立ちいけなくなっているものと思われる。

議員 国は企業農業、大規模農業を推進している。栗原市も平成37年までに全農地の78%を750経営体に集中させるとしているが、農村の人口減を加速させ地域経済の衰退になる。

市長 これからは自分で稼ぐ農業から勤める農業へと概念を変える必要もある。

議員 大規模農業だけでなく、やる気のあるすべての農家を対象とした施策の充実を国に要請すべき。

市長 偏りのない農業政策を国、県に要望していく。

伊豆沼・内沼に観光客用のトイレ設置を

市長／鳥獣保護区の地域指定あり国・県と協議



議員 庄喜 しょうき 佐藤 さとう

議員 早朝、マガン、白鳥の飛び立つ瞬間を観察撮影のため多くの方が来訪する伊豆沼・内沼に観光客用のトイレ設置を。

議員 栗原市中小企業振興条例の状況に関し委員数、会議回数、意見内容提示とそれらの対応、遂行は。

市長 中小企業振興のための課題など意見交換を行う栗原市中小企業振興会議を委員20人以内で構成し今年度中に開催する。

議員 栗原市雇用拡大奨励

ある。鳥獣保護区の地域指定あり国・県と協議する。農道橋完成後、駐車場整備も含め検討する。

金制度について、奨励金増額、新規卒者終了後3年以内を5〜7年に条件緩和を。

市長 制定時の平成18年より5万円、平成22年より20万円、平成27年より地方創生先行型交付金を活用し30万円を交付する。近年は売り手市場で事業所内で純増した場合、増加の人数に交付。現在、受付中である。

議員 「伊治 城の読み方」を「これはり」城の一本化にしてはどうか。

教育長 文化庁のデータに伊治城跡の読み方が「いじょうあ」とあり一般的現代の読み方の「いじょう」とし複数の読みについて誤解なきよう説明していく。

議員 「歴史とロマンの市「栗原」のため充実した歴史博物館を建設しては。

教育長 市内の博物館類似施設で展示、体験、説明会など実施し有効活用する。



ガン飛び立ち撮影人気スポット

すぐ取り組み「人口増施策」

市長／仲人報奨金制度を研究



議員 嘉郎 さきよしろう 佐々木 ささき



未来を担う若者たち（市成人式で）

議員 人口の社会減少にどう取り組むか。

市長 市の将来人口は、2025年は5万9969人、2060年は3万5036人と推計した。若者の移住・定住促進に積極的に取り組む。

議員 現在の出生率1.50を、平成47年には2.07とみている。計画達成のためまず結婚してもらうことが重要だ。「仲人報奨金制度」を考えるべきでは。

市長 結婚に関する意識調査では、未婚者の7割が結婚したいと答えている。提言を受け止め、他自治体や民間の例を参考に研究する。

議員 過疎化の進んだ自治体で仲人報奨金制度をつくり、実績もあがっている。力を入れて欲しい。

市長 特効性のある方策を取っていききたい。

議員 岡山県津山市では、地元に戻って就職すれば、72万円奨学金返還を免除している。取り組んでは。

市長 どんな施策が必要か精査する。来年2月、一部給付型奨励金を検討する。

議員 市の計画では、人やモノの流れをつくるため「へそ」となる中核機能地域を整備する、とある。どのようなイメージか。

市長 中央病院、4号バイパスと県北幹線道との交差点、高原駅周辺だ。民間活力による開発も考えている。

議員 買い物や交通困難者の足の確保が不可欠だ。具体的改善策を示すべき。

市長 使い勝手の良い、持続可能な公共交通システムを検討中だ。



おの きゅういち 議員
小野 久一

三迫川河川公園・使いやすいように改善を 市長／歩行者に配慮した形に改善していく



錆びて読み取れない案内板

く。河川堤防からの進入路については河川区域内を利用している公園であることから、車両の侵入防止のため施錠しているが今後、歩行者に配慮した形態へ改善をしていく。

新設する市役所南側 駐車場にトイレを

議員 9月議会において公衆トイレ設置の提言をしたが、検討することだったので再度質問する。

この場所は災害発生時には多くの住民や支援関係者が往来するところとなる。人間にとって生理的・精神的な苦しみの解消や、トイレがあることによっては喜ぶのではないかと、この近辺を利用される方、イベントで来場される方などの方を考へて是非公衆トイレの設置を求める。

市長 近くにコンビニや市役所がある。公衆トイレの設置には数千万円、維持管理に年数百万円かかる、設置の必要性・緊急性は高くないと判断している。

議員 栗駒岩ヶ崎の三迫川河川公園の施設案内版は何が書かれているか、わからないほどに錆びついているが直すべきでないか。また公園内遊歩道に降りる2本の道に車止めのチェーンが張られている。散歩に利用する歩行者が通れない状況であり、何らかの工夫が必要ではないか。

市長 この公園は現在、市の都市公園として管理している。案内板についてはご指摘のとおり劣化が進んでいることから修繕をしてい

有害鳥獣の抜本的な対策を

市長／県や関係機関と連携し対応



さとう ふみお 議員
佐藤 文男

独自に放射能測定は行っていないが、県の放射性物質モニタリング調査においては国の基準を超えるセシウムが検出されている。

議員 鳥獣被害は年々深刻になっている。市内の有害鳥獣の生息分布はどうか。また、捕獲された有害鳥獣の放射能測定はどうか。

市長 ツキノワグマやイノシシは市内全域で目撃がある。特に栗駒・花山・一迫・鶯沢・金成地区で多い。また、

議員 鳥獣被害対策実施隊の処遇改善を図るべきでは

市長 実施隊には捕獲や状況の確認、わな設置や見回りなどへ費用弁償、わな設置には謝礼を支払っている。報酬の見直しは、他の自治体の事例を参考にしながら実施隊と協議していく。

議員 仮称鳥獣被害対策課



二ホンジカに踏まれ刈り残された稲

を設け、専門的な業務を行うべきと思うがどうか。また、市民から被害情報を的確に収集するための周知に力を入れるべきではないか

市長 実施隊や県などの関係機関と連携して、捕獲や被害防止へ対応していく。また、市広報紙や全戸配布チラシなどで情報提供いただくよう周知の徹底を図る。

ホールボディカウ ンターの測定実績 と今後の方針は

議員 原発事故により市民の内部被曝による健康被害が心配されることから、市設置によるホールボディカウンターの測定が行われているが実績はどうか。また、希望者があるうちは続けるべきと思うが。

市長 平成25年度は3475人、29年度は11月末現在で110人となっている。市民の健康不安解消のため、測定は継続する。

市民要望の見える化導入を

市長／情報の共有化は非常に大事な提言



高橋 将 議員

梶（じくじ）たる思いである。今後、制度設計含めて検討する。

議員 市民要望に対しての返答が無く不安という声を聞く。一次回答を丁寧に行い、市民の不安を解消してはどうか。

議員 総合支所の機能強化のため、支所間での市民要望受付・管理体制を一元化し、支所間での情報共有を行なってはどうか。

市長 情報管理体制を見直すことで、支所間の連絡もスムーズになると感じる。

議員 要望の受付・進捗状況を市民に伝え、市民と問題意識を共有することにつ

市長 概略説明はしていると感じているが、詳細はなかなか伝えられないのは悩

議員 現状と課題は何か

市長 市民意識調査による認知度は着実に上昇しており実現に向かっている。

議員 現状と課題は何か

市長 職場での男女の地位について格差は正の割合が上昇している一方、家庭では低下している。男女の固定的な性別役割分担意識が根強くあることがうかがえる。

議員 男女共同参画が栗原に与える影響は。

市長 性別にかかわらず、個性と能力が十分に発揮でき、真に住みやすいまちになる。女性が活躍の場を取ることができるように努めたい。



性別にかかわらず活躍できるまちづくり

オンライン診療導入の調査研究を

市長／科学技術の推移を勘案し検討



菅原 正剛 議員



スマホのテレビ電話で診療できる時代へ

議員 スマートフォンのテレビ電話で、医師に診察してもらえ、オンライン診療が、国の方針を受け、福岡市など多くの自治体で取り組みを始めている。通院に移動時間がかかる方や仕事でなかなか通院できない方のために診療ができ、医師の負担軽減にもつながるオンライン診療導入に向けて調査研究をしてはどうか。

議員 ①公民館が複数ある地区と一館のみの地区があることから、各地区一館に集約し、公民館として使えない施設については、コミュニティ施設の活動拠点として活用できないか検討する。②ジュニア・リーダーは、子ども会活動など児童が多様な体験活動に取り組めるよう、指導や助言を行い、青少年の健全育成推進の一翼を担っている。青少年教育の核となるよう活動を支援する。シニアリーダーとは、初級研修の講師など技術支援や助言をいただくなど、今後も連携を図っていく。

市長 今後科学技術の推移を勘案しながら検討する。

議員 ①公民館施設について、今後の利活用及び管理運営はどのように考えてい

教育行政について

議員 ①公民館施設について、今後の利活用及び管理運営はどのように考えてい

議員 ①公民館施設について、今後の利活用及び管理運営はどのように考えてい

総合支所の機能を強化すべき

市長／本庁との連携をさらに強化



みづつか あずま
三塚 東 議員

議員 現在、総合支所長には500万円未満の工事が執行できる体制となつている。500万円以上の工事が執行できる権限を与えるべきではないか。

市長 特に緊急性が高い事業は、本庁の管財課などと総合支所がよく調整し、予算の再配分などで対応しているので支障ないと思う。今後、身近な住民の要望などに対し、素早的確に業務ができるよう、本庁と総合支所の連携をさらに強化していく。



総合支所は地域住民の窓口

議員 総合支所の機能の充実、地域振興に欠かせない。特に高齢化率の高い地域にとつて、きめ細かな保健指導を行うには保健師の常勤化が必要である。現行の保健推進室5ブロック体制を改める考えはないか。

市長 保健推進室の5ブロック化は、若年層や未婚者の妊娠や出産、産後の鬱(うつ)、経済的な問題での自死など、さまざまな緊急的に対応する問題が山積し、相談事例の増加が見込まれたことから、複数の保健師で対応することにより、市民サービスの向上と緊急的に対応できることから平成23年度に設置した。現時点では、現行の5ブロック体制を継続していきたい。

今後、地域包括ケアシステムを構築する予定で、旧町村10地区にコーディネーターを1人ずつ配置する。保健師のみならず、地域包括支援センターさらにはコーディネーターと連携を図りながら、きめ細かな福祉政策の充実に努めていきたい。

特産認定品「栗駒山麓のめぐみ」を活用せよ

市長／ジオパークの情報発信と販路拡大を推進していく



さわべ ひろあき
澤 幸浩 議員

議員 栗原市から認定を受けた、栗駒山麓ジオパーク特産商品「栗駒山麓のめぐみ」の活用について聞く。

活用の際し、新しい観光施設、観光拠点、観光物産施設の利用や、市民協働による認定商品のブース販売など、積極的に販売を推進するべく、その施策を問う。

市長 認定商品の活用については、ジオツアーを始めジオパーク学習、各種講座や研修会、市内外からの視察の際など、様々な活動の場における利用や観光施設、直売所での販売を始め、多くの方が認定商品を味わえる機会をつくり、「栗駒山麓のめぐみ」を活用したジオパークの情報発信と認定商品の販路拡大に向けた

取組みを推進して行く。

議員 児童遊園のトイレ設置の現況について聞く。現在、築館子育て支援センター裏にある広場には、トイレの設置がなされていないが、近隣の子供たちや保護者の方などにおいて利用頻度も高い中で、不便で困っている声を聞くが、トイレの設置を強く望むものであるがどうか。

市長 この施設は、築館子育て支援センターの野外遊技場の位置づけとして設置したこと、現在トイレは設置しておらず、今後、利用状況の推移を注視し、周辺施設の状況等も勘案しながら検討していく。

議員 「くりはら斎苑」の案内表示板を主要道路沿いに設置して、案内の不便性を改善してほしいがどうか。

市長 今後設置場所や箇所数も含めながら、道路管理者など関係機関と協議し、検討していく。



暮らしに直結する案内表示板を

東京五輪ホッケーキャンプ地誘致 外れたのはなぜ

教育長／人工芝の仕様と練習相手がいないこと



いしかわ まさよし 議員

議員 市はホッケーの町くりはらを掲げ、ホッケー場などの施設整備を行いホッケーの強豪チーム、オーストラリアを五輪事前キャンプ地として誘致するため取り組んできた。ところがオーストラリアホッケー協会からキャンプ地として他の2ヶ所を特定しており、栗原市への予定はないとのことだが、なぜ栗原が外れたのか。その要因は。

教育長 東京オリンピックのホッケー競技場で採用される人工芝の仕様と、日本リーグに出場しているホッケーチームが近くにいないため練習試合が出来ないことが要因である。

議員 今後、他の国のホッケーチームの事前キャンプ



築館多目的競技場

誘致をどう進めていくのか。

教育長 市は日本ホッケー協会公認のホッケー場を2面有していることや競技場の環境、宿泊施設などのアピールの結果、早速興味を示した国の協会があり、今後は大使館などの協力要請を行い実現に向けて取組んでいく。

議員 県内で唯一ホッケー

の盛んな栗原。将来のホッケー人口を増やし継続していくため市内小学校5校にホッケー用具一式を配布したがその効果と指導体制は。

教育長 初めてホッケーを体験する子どもが多いが楽しく実践している。ホッケーというスポーツを知り興味を持つことで底辺の拡大と競技人口の増加につなげていく。また指導体制はホッケー協会の協力を頂きながら実施している。

ホッケー用具配布校の取り組みについて

放課後児童クラブ委託料 7800万円減額の理由は

教育長／利用児童数、支援員、消耗品の精査による



すがわら ゆうき 議員



小学校敷地内の放課後児童クラブ（若柳）

議員 今議会に放課後児童クラブ委託料の減額補正7800万円が提案されている。「精査による減額」と説明されたが大幅減額の理由は。

教育長 当初予算では、利用児童数914人、支援員数125人と見込み2億3172万1000円予算措置した。委託契約にあたっては利用児童数880人、支援員数90人と見込み栗原市社会福祉協議会と1億7057万4000円で契約

を結び業務運営を行ってきた。今回、上半期終了し、利用児童数の推移、支援員の配置および消耗品などの見込みもついたことから年間所要額を1億5372万1000円と見込み当初予算額と決算見込み額の差額7800万円を減額することとしたものである。

議員 人件費については、法に照らして、まっとうな支払いが行われているか。

教育長 委託先の栗原市社会福祉協議会では業務運営にかかる支援員などについて雇用する際、関係法令に基づいた労働条件通知書を示し両者合意のもと業務にあたっていると伺っている。

議員 時間外勤務手当の割増賃金0.25分支払っていないと仄聞（そくぶん）するが承知していないのか。事業実施記録5年間保存するとの委託契約であり、5年間さかのぼって支払っては。

教育長 対象者78人に平成27年4月にさかのぼって支給する報告を受けている。私どもとしても詳細を確認しながら相談させていただく。

栗原は歴史ロマンの里

私たちが住む「栗原」は栗駒山の麓で四季折々の自然と歴史文化の宿る「白鳥と歴史ロマンの里」です。

富野地域に、1250年前陸奥国最北端の政治・軍事施設「伊治城」を造営し、栗原郡が置かれ、城名「これほり」が栗原地名の語源です。また古墳時代前期(四世紀)大和政権に連なるリダーが住んだと見られる「入の沢遺跡」が発見され、学術的に貴重な遺跡として全国的に脚光をあびています。こうした先人たちの努力によって育まれてきた栗原の歴史文化を、守り伝え活かしたまちづくりをしたいと「富野地域づくり協議会」では、歴遊ロマンウォーク、子供たちによる古代米作りや歴史探検ウォークラリー、民族芸能(神楽)伝承まつりなど実施しています。

栗原の地は歴史ロマンに誘われる地が多く、はるかな昔の壮大な歴史を発信できる歴史博物館、史跡公園の整備を期待しています。



斎藤 義憲さん
(築館)

私もひとこと

男女共同参画社会の形成



佐藤 けい子さん
(若柳)

私が入っている「くりはらチャレンジ(Learning)」では、毎年「いご・市民セミナー」の受講、栗原市議会議員との懇談会、栗原市議会の傍聴を実施していますが、市長さんはじめ議員の皆さま、そして職員の皆さまが、くらしい栗原を創ることにやる気込みを強く感じます。

少子化問題が解消されず人口減少が止まらない訳は様々あると思いますが、私は、一番は労働環境の悪化(非正規雇用、低賃金、長時間労働)だと思えます。家庭を共に育む両親が、経済的に精神的に安定していない事が子育ての弊害となり、少子化につながっていると感じます。

仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)と地域活動の活性化を目指し、男女共同参画社会の形成を推進して、誰もがいきいきと暮らすことができる栗原市の実現に、議員皆さまのご尽力に期待いたします。

あとがき

明けましておめでとうございます。今年の冬は厳しい寒さが続くようです。健康にも車の運転にも注意しなければと思っています。12月議会は19人が一般質問に立ち、3日間とも時間を延長する激しい議論が行なわれました。本号に載せておりますので是非ご覧ください。

11月には広報編集調査特別委員会の先進事例調査を実施し、利府町議会と東京都あきる野市議会とで研修してきました。この2年の任期の中で市民に興味をもたれ、読みやすいと言われるような紙面づくりに努力します。新人議員全員が編集委員で、やる気満々ですのでご期待ください。

小野 久一
広報編集調査特別委員会

- 委員長 佐藤 正 剛
- 委員 菅 原
- 委員 佐藤 庄 喜
- 委員 小野 久 一
- 委員 澤邊 幸 浩
- 委員 鹿野 芳 将
- 委員 高橋 幸 将
- 委員 菅原 勇 光
- 委員 阿部 貞 光
- 委員長 瀬戸 健治郎

